



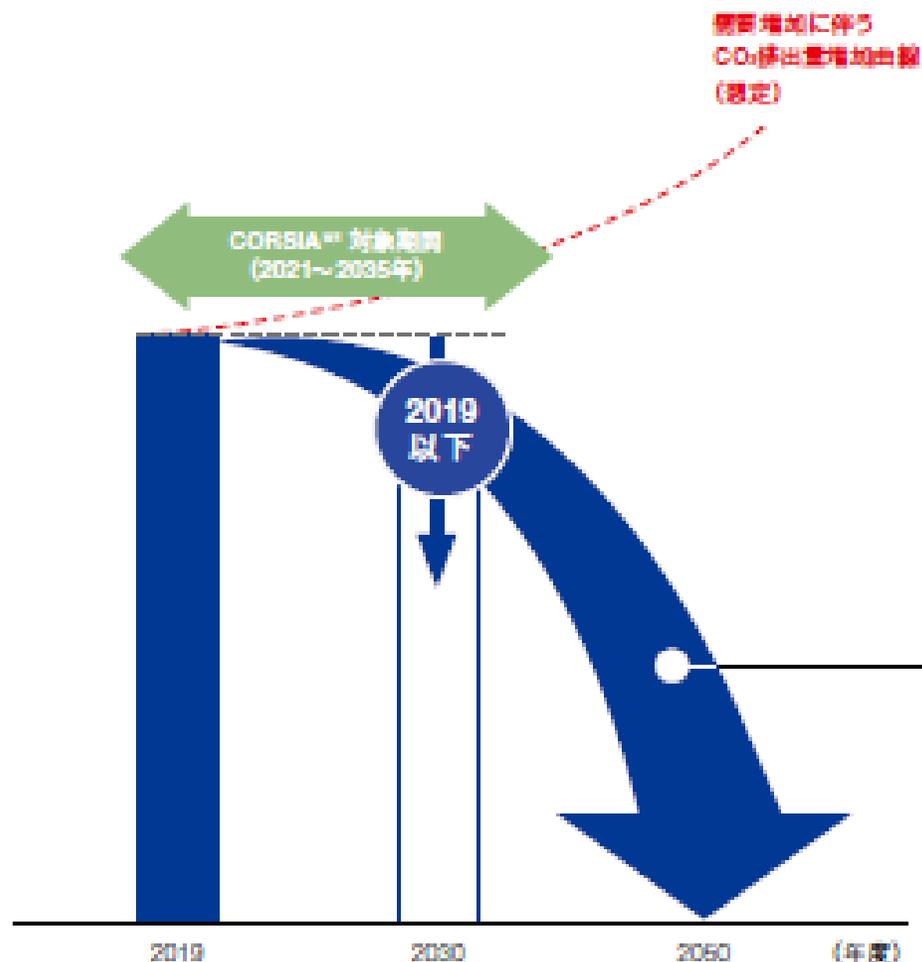
ANAホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部
宮田 千夏子

2050年度までにカーボンニュートラルを実現

		2030年度		2050年度		
CO ₂ 排出量の削減	航空機 	目標	2019年度以下(実質)	実質ゼロ		
		取り組み	<ul style="list-style-type: none"> SAFの活用 航空機の技術革新 オペレーション上の改善 排出権取引制度の活用 			
		達成に必要な環境整備	<ul style="list-style-type: none"> SAFの安定供給(量・価格) 航空機の技術革新(電気・水素飛行機などの開発) CO₂クレジット市場の開拓 			
	航空機以外 	目標	33%以上削減(2019年度比)	実質ゼロ		
		取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備機器の省エネ化や老朽化更新 再生可能エネルギー(太陽光・風力など)の活用 空港車両の更新時にEV(電気自動車)/FCV(燃料電池自動車)化を促進 			
		達成に必要な環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの供給拡大 EV(電気自動車)/FCV(燃料電池自動車)化のための空港インフラ整備 			

2050年度までにカーボンニュートラルを実現

ANAグループのCO₂排出量 イメージ図



1

SAFの活用

2

航空機の技術革新

3

オペレーション上の改善

4

排出権取引制度の活用

SAF (Sustainable Aviation Fuel)の活用

2019年

- SAF製造を手掛ける米国Lanza Tech社と中期的な供給に向けた契約を締結
- Lanza Tech社製造の排ガスを原料とするSAFを日本への新造機のデリバリーフライトに使用

2020年

- フィンランドNESTE社と中期的な供給に向け戦略的提携を開始
- NESTE社と共同で羽田・成田空港を出発する定期便として初となるSAF使用フライト実現
- 東芝エネルギーシステムズ(株),(株)東芝,東洋エンジニアリング(株),出光興産(株),日本CCS調査(株)が持つ知見・技術・プラント設備等を活かし、排ガスなどからCO2をSAFに再利用するカーボンリサイクルビジネスモデルの検討を開始することに合意

2021年

- NEDOプロジェクトにおいて(株)IHIが製造した国産SAFを羽田空港発の定期便に使用

